

日本銀行
帯広事務所長

齊藤 徹



星野博美著「転がる香港に苔（こけ）は生えない」という本がある。1997年7月、香港がイギリスから中国に返還される前後、香港からカナダに移住した人、中国から香港に出稼ぎに来た人など、現地で生活する人々の葛藤が、生き生きと描かれている傑作で、大宅壮一ノンフィクション賞を受賞している。2001年5月から03年5月までの2年間、香港事務所に

勤務していた関係で、何度も繰り返し読んだ。

日本銀行は、現在、ニューヨーク、ワシントン、ロンドン、フランクフルト、パリ、香港、北京に海外駐在員事務所を設け、海外情勢の把握等に努めている。香港事務所は、1997年7月に設立され、赴任当時、北京事務所開設前だったので、アジア・オセアニア地域全体を

2年間という短い期間ではあったが、中国、インド、NIES（新興工業国・地域）・ASEAN（東南アジア諸国連合）諸国等、数多くの国や地域に出張する機会を得た。

2000年代初頭、香港は返還バブルの反動で元気がなかったが、多くのアジア諸国は1997年に起こったアジア通貨危機から回復を遂げ、韓国のサム

時期でもあった。SARS感染拡大のタイミングで香港にいたから、という訳でもないと思うが、帰国後、本店で業務継続に関する仕事を担当し、新型インフルエンザ対策に関する対外公表ペーパーを執筆した。

SARSの感染が拡大する中、どのマンションで感染者が出たか、自分の身の安全を図るため人々の関心が高まっている

が制限されることとなった。1997年に返還されたとき、先行き50年の間、「一国二制度」による高度な自治が約束されていた。本年6月30日は国家安全維持法施行5周年に当たり、日本でもさまざまな報道機関が、香港の変わったところ、変わっていないところを報じた。

転がる十勝に苔は生えない

香港と十勝に共通する点はあまりないように思われる。ただ、その強い民間の力で独自の光を放っているところは似たものがあるようにも思う。

星野博美著「転がる香港に苔（こけ）は生えない」という本がある。1997年7月、香港がイギリスから中国に返還される前後、香港からカナダに移住した人、中国から香港に出稼ぎに来た人など、現地で生活する人々の葛藤が、生き生きと描かれている傑作で、大宅壮一ノンフィクション賞を受賞している。2001年5月から03年5月までの2年間、香港事務所に

スンや中国のハイアールが台頭し、日本の電機メーカーに迫る存在になってきていた。当時、サムスンの「選択と集中」やハイアールの「野菜が洗える洗濯機」が話題になっていたのを覚えている。

2001年の米国同時多発テロの発生や02年のSARS（重症急性呼吸器症候群）感染拡大により、海外出張が制約された

アジア諸国は、米国の通商政策や人口高齢化などの影響を受けながら、今後も変化を続けていくだろう。十勝も気候変動や人口減少などが進む中、変化を迫られている。農業分野はもちろん、上幌町のように、自動運転バスドローンを使った配送など、新たな技術の導入により着実に対策を進めているところもある。今後とも、十勝の進む方向を注視していきたいと思う。

まいかち論壇

2001年の米国同時多発テロの発生や02年のSARS（重症急性呼吸器症候群）感染拡大により、海外出張が制約された

2020年、香港で国家安全維持法が施行され、言論の自由

が制限されることとなった。1997年に返還されたとき、先行き50年の間、「一国二制度」による高度な自治が約束されていた。本年6月30日は国家安全維持法施行5周年に当たり、日本でもさまざまな報道機関が、香港の変わったところ、変わっていないところを報じた。